

Press Release

2025年1月10日



横浜美術館コレクション展

2025年2月8日（土）－ 6月2日（月）

- ・新収蔵作品特別展示——浅井裕介《八百万の森へ》
- ・新たにむかえた作品たち——生活・手仕事・身体

横浜美術館リニューアルオープン記念展「おかえり、ヨコハマ」とともに、3階展示室で開催するコレクション展では、ふたつのテーマに基づき、休館中に収蔵した作品を紹介します。



浅井裕介《八百萬の森へ》2023年 土、アクリル樹脂、木炭、鉛筆、弁柄、パネル 325×390 cm 横浜信用金庫創立 100周年記念寄附による購入

ひとつめは、横浜にゆかりのあるアーティスト、浅井裕介（あさい・ゆうすけ、1981年生まれ）による新作《八百萬の森へ》です。この作品は、横浜信用金庫が創立100周年記念事業として、2023年に横浜市文化基金に寄附を行ったことをきっかけに収蔵されたものです。

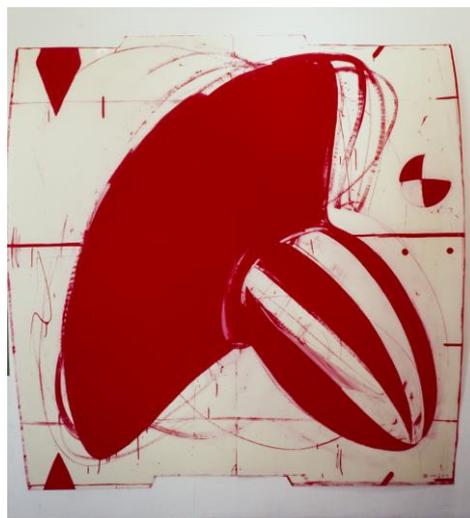
浅井は、土や水、マスキングテープやペンなどの生活に身近な素材を使い、動物や植物、山川や草木に宿る精霊のような存在を描くアーティストです。また、日本および世界各地で採集した土を絵具にし、それを使って各地の人と協働制作をすることでも知られています。

本作では、横浜信用金庫の各支店・拠点やボランティアによって集められた横浜市内の土が使われており、作品制作も、横浜信用金庫の3つの支店（鶴ヶ峰支店、本店営業部、市場支店）および新高島駅にあるBankART Stationなど、横浜市内で行われました。サイズの異なる9枚のパネルを組み合わせることで生まれる、高さ約3メートルの大作をお楽しみください。

ふたつめは、1980年以降の現代アートです。横浜美術館は、19世紀から現在にいたる美術作品を収集しています。現代アートの収蔵にあたっては、すでにあるコレクションとの関係を考慮し、当館ならではの視点で「今という時代」を語ることでできる作品を集めています。

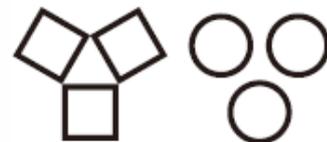
今回は、こうした観点から休館中に収蔵された、1980年代と2010年代の作品を中心に紹介します。1980年代、日本では好景気を背景に現代アートの多様化が進みました。この時代に登場したのが、身の回りの出来事や身体をテーマに制作をする女性アーティスト、手仕事の創作や性差の問題に取り組む男性アーティストです。彼らが提起したジェンダーの問題や日常から世界を見つめる視点は、2010年代以降の現代アートにも引き継がれ、今に至っています。

本展を皮切りに、横浜美術館では、休館中に収蔵した作品に焦点をあて、さまざまな切り口からコレクションの魅力を紹介していきます。



吉澤美香《は-9》1990年 ABSインク、ABS樹脂 201.5×202 cm 北田治氏寄贈

横浜美術館



出品作家

浅井裕介、石原友明、岩崎貴宏、スプツニ子！、辰野登恵子、椿昇、ヘルナン・バス、クリス・ヒュン・シンカン、平林薫、福田美蘭、松井智恵、森村泰昌、吉澤美香

*50 音順



福田美蘭《水曜日》1988年 アクリル絵具、合板に貼付した綿布、紙 181.8×227.2 cm



石原友明《無題、1986》1986年 感光乳剤、アクリル絵具、カンヴァス 70×300×400 cm



森村泰昌《私の中のフリーダ（自分との対話 1）》2001年 発色現像方式印画、195×175 cm 寄託

展覧会の見どころ

○浅井裕介が「横浜」のために制作した新作！

浅井裕介による作品《八百万の森へ》は、2024年7月5日～7日の3日間限定で、無料で特別展示を行いました。9枚のパネルを組み合わせることで生まれる本作は、浅井が指定した7パターンを基本に絵柄を変化させていくことができます。本展では、7月とは異なる絵柄の作品をご覧いただけるとともに、作品の完成までを記録した資料や映像も新しく展示します。

○休館中に収集された現代アート！

3年間にわたる休館の間、横浜美術館は様々な作品を収蔵する機会に恵まれました。本展はその中から、1980年代と2010年代の現代アートを中心にをご紹介します。1980年代には、男性が中心だった美術界の価値観を覆す女性アーティストが数多く登場しました。また、男性アーティストの間でも、身体や手仕事の創作などを扱う作品が目を引くようになります。ジェンダーに対する問いかけや環境問題などを取りあげる2010年代の作品とともに、現在に繋がるテーマが提示された1980年代の現代アートをご覧ください。



吉澤美香《は-10》1990年 ABS インク、ABS 樹脂 201.5×198.5 cm 北田治氏寄贈

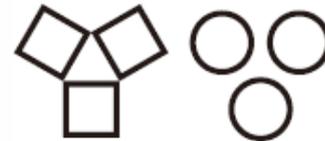


ヘルナン・バス《彼のものは花に擬態する唯一の種として知られる》2017年 アクリル絵具、エナメル、麻布 152.4×121.9 cm 寄託
Photo by Kei Okano. Courtesy of the artist and Perrotin



岩崎貴宏《アウト・オブ・ディスオーダー（海洋モデル）》2017年 ビニールシート、使い捨て弁当箱、ストロー、輪ゴム、ペットボトル、テーブル 88.5×250×100 cm 個人蔵（寄託）
第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示
撮影：木奥恵三 ©Takahiro Iwasaki 提供：国際交流基金

Press Release



関連イベント

○ギャラリー・トーク

さまざまな切り口で、学芸員やエドューケーターが作品の見どころや楽しみ方を紹介します。

- 日時 ①2025年4月11日（金）14：00～14：30
②2025年4月19日（土）11：00～12：00 （英語通訳付き）
③2025年5月2日（金）14：00～14：30
④2025年5月10日（土）11：00～12：00 （手話通訳付き）
- 会場 コレクション展 3F 展示室
- 参加費 無料（申込不要、当日有効の観覧券が必要）

基本情報

横浜美術館コレクション展

- ・新収蔵作品特別展示——浅井裕介《八百万の森へ》
- ・新たにむかえた作品たち——生活・手仕事・身体

会場	横浜美術館（横浜市西区みなとみらい3-4-1）ギャラリー5、ギャラリー6
会期	2025年2月8日（土）～6月2日（月）
開館時間	10:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）
休館日	木曜日（ただし3月20日〔木・祝〕は開館）、3月21日（金）
主催	横浜美術館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
観覧料	一般 500(400)円／大学生 300(240)円／中学・高校生 100(80)円／小学生以下無料 （ ）内は有料 20名以上の団体料金（要事前予約、美術館券売所でのみ販売） ＊毎週土曜日は、高校生以下無料 ＊障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1名）は無料 ＊企画展ご観覧当日に限り、企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。 ＊ギャラリー8、ギャラリー9のコレクション展は観覧無料

お問合せ先 横浜美術館 広報担当（福山、高橋）
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1
TEL：045-221-0319 FAX：045-221-0317 Email：pr-yma@yaf.or.jp

プレス画像申込

横浜美術館